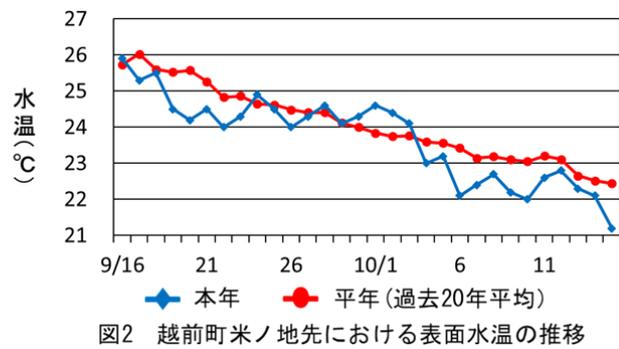
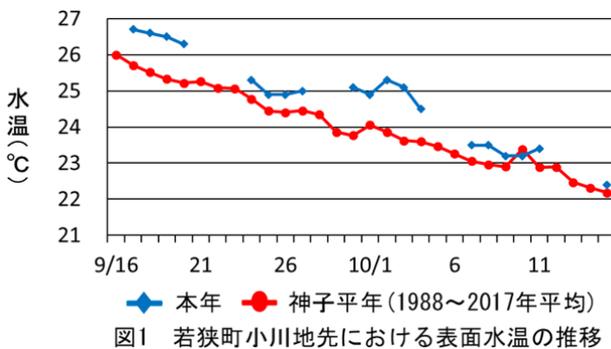




〔海の状況(9/16~10/15)〕

- ・小川地先の表面水温… 期間を通して神子平年並み(平年差±0.5℃)から平年よりかなり高め(平年差1.0℃~1.5℃)で推移した。(図1)
※神子平年は、1988年~2017年の神子地先の平均値
- ・米ノ地先の表面水温… 期間を通じて平年よりはなはだ低め(平年差~-1.5℃)から平年並み(平年差±0.5℃)で推移したが、10月初めには平年よりやや高め(平年差0.5℃~1.0℃)の日も見られた。(図2)



〔若狭湾および周辺海域の海況：9月〕

9月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、表層(0 m)では、若狭湾で26℃~28℃と前年同様であった。水深50 mでは、若狭湾で22℃~26℃と前年より高くなっていた。水深100 mでは、若狭湾で16℃~18℃と前年同様であった。水深200 mでは、4℃~6℃の範囲が前年より小さくなっていた。(図3)

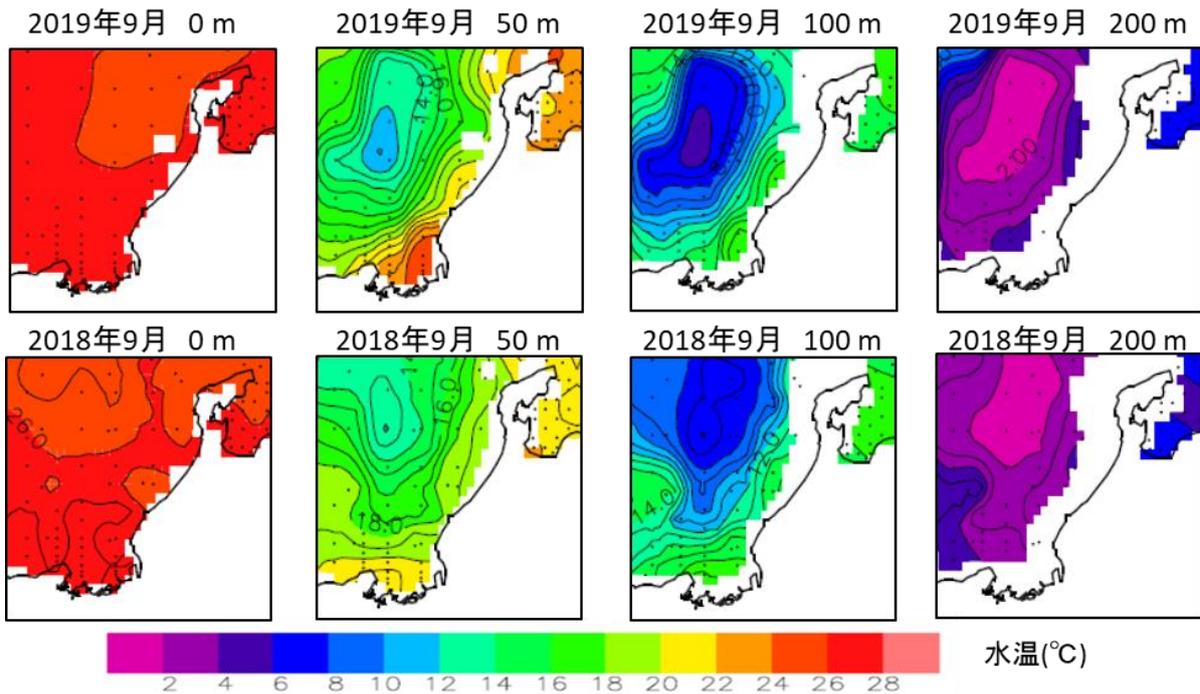


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図(日本海区水産研究所の日本海漁場海況速報より抜粋)

2019年度 第3回 日本海海況予報

水産研究・教育機構 日本海区水産研究所から発表されました見出しの予報に、今後(11～12月)に関する情報がありますのでご紹介します。

○山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、やや大きくやや接岸で経過する。

○対馬暖流域の表面水温は、平年並みで経過する。

○対馬暖流域の50m深水温は、日本海北部及び西部ともに平年並みで経過する。

この予報は日本海区水産研究所ホームページ(<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/index.html>)からも閲覧できます。
(漁場環境グループ 長島 拓也)

〔県内の漁模様：9月〕

2019年9月の県内の総漁獲量は1,163 tで、昨年同月を80 t下回った。

〔定置網〕

漁獲量は765 tで、昨年同月を125 t下回った。シイラ、ブリ銘柄(ハマチ・アオコ)等は上回ったが、サワラは大きく下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は299 tで、昨年同月を15 t下回った。アカエビ、スルメイカ等は上回ったが、その他カレイ、アカガレイ、キダイ等は下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は99 tで、昨年同月を60 t上回った。ソデイカ等は下回ったが、スルメイカは大きく上回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(9月)

定置網 (kg)						底びき網の続き (kg)					
魚種名	2019年	2018年	平年	前年差	平年差	魚種名	2019年	2018年	平年	前年差	平年差
マイワシ	490	1,756	432	-1,266	58	ハタハタ	1,118	672	1,600	446	-482
ウルメイワシ	354	60	746	294	-392	ニギス	27,564	30,749	19,983	-3,185	7,581
カタクチイワシ	1,531	569	3,671	962	-2,140	メバル類	1,130	1,102	1,270	27	-141
アジ類	23,008	17,639	50,296	5,369	-27,288	スルメイカ	4,636	2,058	1,830	2,578	2,806
サハ類	29,653	17,562	16,577	12,091	13,076	タコ類	4,346	5,236	5,715	-890	-1,369
カジキ類	4,937	6,698	9,756	-1,761	-4,819	アカエビ	92,798	72,143	65,546	20,654	27,252
カツオ類	350	1,278	2,085	-928	-1,736	その他	57,273	74,885	73,029	-17,612	-15,756
ブリ銘柄計	101,281	57,430	96,325	43,850	4,956	合 計	298,612	313,658	301,959	-15,046	-3,347
(ブリ)	18	82	139	-64	-121	釣り、延縄、さし網、その他の漁法 (kg)					
(ワラサ)	4,755	292	2,341	4,463	2,414	魚種名	2019年	2018年	平年	前年差	平年差
(ハマチ)	20,028	2,169	14,021	17,859	6,007	アジ類	67	169	505	-102	-438
(ツバス)	32,398	35,781	60,027	-3,383	-27,629	カジキ類	198	49	730	150	-532
(アオコ)	44,082	19,106	19,797	24,976	24,285	(ハマチ)	24	313	237	-289	-213
ヒラマサ	15,749	7,319	7,445	8,430	8,304	ヒラマサ	870	487	385	384	485
シイラ	277,538	87,217	97,762	190,322	179,776	マダイ	684	1,404	1,983	-720	-1,299
サワラ	283,748	665,273	441,653	-381,525	-157,905	キダイ	7,302	7,382	7,234	-80	68
マダイ	1,667	1,702	2,322	-35	-655	アマダイ	3,768	4,086	4,552	-318	-784
スズキ	2,365	5,518	2,413	-3,153	-48	スズキ	76	474	245	-399	-169
ヒラメ	336	177	297	160	39	ヒラメ	72	41	274	31	-202
カマス	2,492	2,832	17,237	-340	-14,745	メバル類	949	722	2,983	226	-2,034
アオリイカ	4,040	314	7,493	3,726	-3,453	スルメイカ	62,049	189	5,997	61,860	56,052
ケンサキイカ	2,170	3,767	6,673	-1,597	-4,503	ケンサキイカ	34	1,109	4,323	-1,075	-4,289
その他	14,038	14,250	26,090	-212	-12,052	ソデイカ	1,796	4,808	8,784	-3,012	-6,988
合 計	764,903	889,545	788,096	-124,642	-23,193	タコ類	2,572	2,106	3,300	466	-728
底びき網 (kg)						その他	18,791	16,227	27,570	2,564	-8,779
魚種名	2019年	2018年	平年	前年差	平年差	合 計	99,252	39,565	69,101	59,687	30,151
キダイ	10,564	13,825	12,033	-3,261	-1,469	全漁法 (kg)					
アカガレイ	76,196	80,668	84,105	-4,472	-7,909	魚種名	2019年	2018年	平年	前年差	平年差
その他カレイ	16,954	25,378	33,340	-8,423	-16,386	合 計	1,162,767	1,242,769	1,159,157	-80,001	3,611
アナゴ	7,163	8,045	4,778	-882	2,386						

※1 平年の値は2009～2018年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。
※3 ニギスの平年値は2015～2018年の4年平均です ※4 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

漁獲状況…石川県：9月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：9月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：9月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：9月中旬～10月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。

石川県…定置網…フクラギ・コゾクラ 5.3t、サワラ類 3.9 t、ウルメイワシ 2.5 t、シイラ 1.0 t、マアジ 1.0 t

京都府…定置網…ツバス 4.8 t、シイラ 4.4 t、サワラ 3.9 t、マアジ 1.1 t、混じり(カタクチ・じんた等) 0.7 t

兵庫県…定置網…マアジ 82 kg、ヒラマサ 45 kg、ツバス 38 kg、ウルメイワシ 12 kg、シロイカ(ケンサキイカ) 7.9 kg

鳥取県…まき網…ウルメイワシ 18.4 t、マサバ 9.3 t、ブリ類 6.0 t、マアジ 3.1 t、マイワシ 2.8 t

(漁場環境グループ 長島 拓也)

「越前がに」の資源状況について

今年も、11月6日に福井が誇る「越前がに」漁の解禁を迎えます。調査船「福井丸」により実施したトロール調査結果等を基に、本県沖合のズワイガニ資源量を推定しましたので、お知らせします。

漁獲動向（図1）

福井県底曳網漁業協会の集計による漁獲量の経年変化は、最低であった昭和54年度以降は増加傾向となり、近年は400～500tで推移しています。平成30年度の漁獲量は、404tで、平成29年度を13トン上回りました。

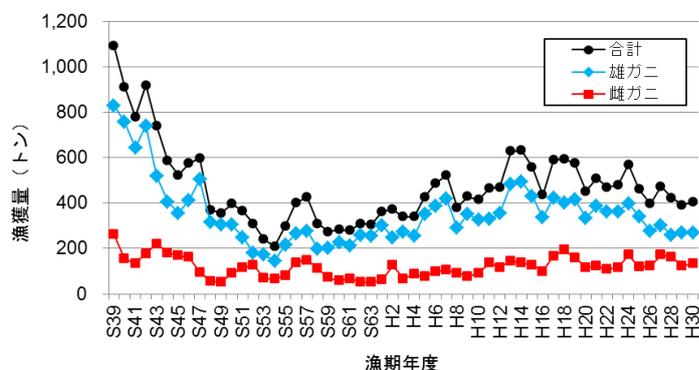


図1 ズワイガニ漁獲量経年変化

資源状況（図2）

雄についてみると、今漁期の漁獲の主体となる12歳の資源水準は昨漁期並みですが、今漁期から水ガニとして漁獲の対象となる11歳の資源水準は昨漁期よりやや低い状況にあると考えられます。今漁期に漁獲対象となる雄の資源量を推定したところ、2,394tと算出され、昨漁期と同程度となりました。

また、雌についてみると、今漁期から漁獲の対象として加入するクロコ（経産ガニ）の資源水準は昨漁期より低い結果となりました。今漁期に漁獲対象となる雌の資源量を推定したところ、昨漁期を下回る220tと算出されました。

漁模様

今漁期は、漁獲の主体となる雄の資源は昨年並みであり、今漁期に漁獲対象として加入する年級群も認められるため、雄の漁獲量は“昨年並み”と見込まれます。

一方、雌の漁獲量は“昨年をやや下回る”と見込まれます。

（漁業管理グループ 瀬戸久武）

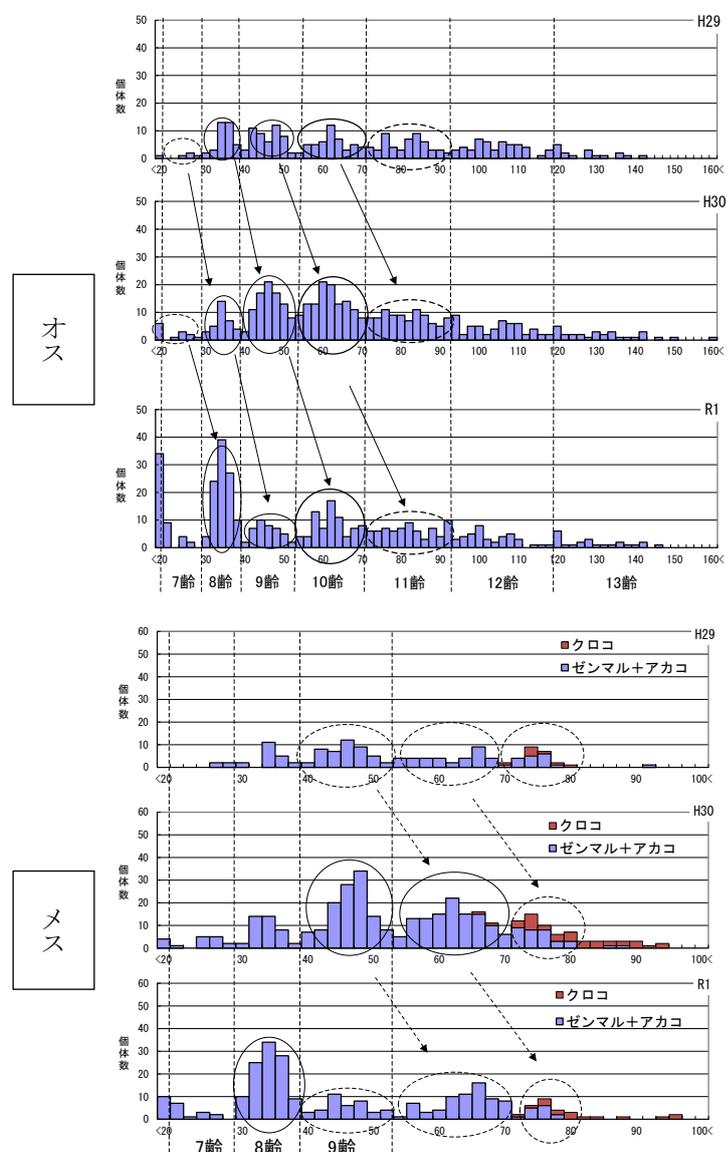


図2 トロール調査で採集したズワイガニの甲幅組成 (X軸: 甲幅mm Y軸: 個体数)